



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 1 月 1 9 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

2025 年春節 日本を訪れるインバウンド

アジア最大級のオプションツアー予約サイトを運営する株式会社 KKDAY JAPAN によると、2025 年の春節（旧正月）休暇で日本を訪れるインバウンドの中で人気の都道府県ランキングは、1 位東京、2 位大阪、3 位京都、4 位北海道、5 位沖縄であることが明らかになりました。ここまでなら私もそんなものかと特段驚きもしませんが、「急上昇体験スポットランキング」なるものを目にしてビックリ!! 1 位山形、2 位宮城、3 位岐阜、4 位福島、5 位青森。何と、ベスト 5 に東北が 4 県もランクイン。特に山形県は全体の春節人気体験先ランキングで、昨年 24 位から急上昇、今年は 11 位となったのです。何で？ 春節に長期の休みをとる習慣がある国と地域は、台湾、香港、中国内陸部、シンガポールなど 9 カ国と地域。アジアの皆さんがこぞって東北に暑い視線を送る理由は如何に（冬なのに）。中でも蔵王キツネ村（宮城）と山形県の蔵王の樹氷、銀山温泉を周遊するバスツアーが人気で、予約数は前年の 2 倍以上となっているのだそうです。東北地方が人気になっている背景には、SNS での拡散があります。銀山温泉と雪が織りなすノスタルジックな景色や、雪とともに写るキツネの愛らしい写真は海外で爆発的な人気を誇っており、一度は行きたいスポットの 1 つとなっているらしいのです。キツネがそんなに珍しいのか？ その他にも、福島県の大内宿や青森の奥入瀬溪流や八甲田山などでのスノーアクティビティなども人気で、冬の日本でしか楽しめない特別な景色や体験にも注目が集まっています。

特に台湾のみなさんにとって日本は最大の海外旅行先となっていて、2019 年、日本から台湾を訪れた



旅行者の数が、216 万 7952 人であったのに対し、台湾から日本を訪れた旅行者は 489 万 0600 人。日本の人口が 1 億 2700 万人に対して、台湾の人口が 2300 万人ですから、どれだけすごい数なのか想像に難い。ある人は、この状況を「台湾の片思い状態」と評しておりました。

そんな訳ですので、この時期、新幹線待ちや蔵王の樹氷を見に来られた外国の方々で、産業科学館も大賑わい？ 例年と違う対応が必要になるケースがあるかもしれません。

サバンナ効果

明るいところに集まるのは、虫の世界だけではないようです。いわゆる「走光性」というやつです。人間も同じ。もし私が、真っ暗な森の中に迷い込んだとしたら、必至に出口を探すでしょう。そして暗闇の中に明かりを見つけたら、真っ先にそちらの方向へ向かうことでしょう。そしてその先に出口を見つけたら、このうえない安心感を覚えるはずですよ。

サバンナは熱帯草原を指す言葉。その言葉をとった「サバンナ効果」とは、森の中からサバンナ（熱帯草原）を見ると、草原のほうが明るいので安心感を覚え、草原のほうへと向かいたくなりますが、草原から森を見ると、森のほうが暗いので不安になり、足が向かない。そんな人間の心理を表すことばです。

「サバンナ効果」は、人間社会のさまざまな場面で利用されています。例えば、玄関付近を暗く、部屋の奥側を明るくして、部屋全体を広く感じさせるとか、トンネルを一直線に作ると、運転者の前方に光が見えるため、スピードを出し過ぎる人が増えるので、トンネルをわざと曲線的に作るとか。GW や夏休みなど、長期連休中は特に混雑してしまう高速道路のトイレでは、入口付近から使用しがちで、一度行列ができてしまうとその後ろに並んでしまうという傾向があるので、個室が並ぶトイレ空間の奥の壁を照明で明るく照らし、奥まで万遍なく使われるようにした。などの事例はサバンナ効果をうまく利用した成功例といえるでしょう。お店の入口は開いていても、建物の中が暗くて、人の気配が感じられなかったら、「入るのやめようかな」と思った経験は誰にでもあるのではないのでしょうか。お客様が利用しやすく、かつ働く私たちも働きやすい環境作りに、「サバンナ効果」を活用してみたいかがでしょう。